

令和4年度厚生労働省母子保健指導者養成研修

事例紹介

育てにくさを抱えた親子を支える三鷹市の取り組み
～家庭の子育て力向上を目指して～



三鷹市健康福祉部健康推進課

小島 美保

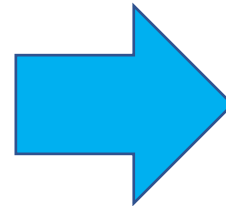
令和4年11月10日

- 1 これまでの取組の課題と気づき
- 2 子ども発達支援センターとの共催事業へ
- 3 子育て支援プログラムについて
- 4 大切にしたい心の育ち
- 5 「子育て世代包括支援センター機能」を発揮して
すべての子どもの健やかな育ちを支える

- 1 これまでの取組の課題と気づき**
- 2 子ども発達支援センターとの共催事業へ
- 3 子育て支援プログラムについて
- 4 大切にしたい心の育ち
- 5 「子育て世代包括支援センター機能」を発揮して
すべての子どもの健やかな育ちを支える

子ども発達支援センターの設置に関わる庁内検討会議（平成27年度）

児童発達支援事業所
(北野ハピネスセンター)
*くるみ幼児園



平成29年4月から

子ども発達支援センター

検討事項

北野ハピネスセンターの円滑な移行について
庁内関係各課の効果的な連携について

障害児支援事業・計画相談事業

主な構成メンバー

健康福祉部

健康福祉部長/健康推進課長/障がい者支援課長/北野ハピネスセンター館長他

子ども政策部

子ども政策部長/子ども育成課長他

教育部

学務課教育支援担当課長/指導課統括指導主事他

企画部

企画経営課企画調整係/財政課他

保育所等訪問支援事業

児童発達支援事業
(くるみ幼児園)

地域生活支援事業

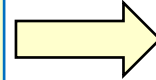
子ども発達支援センターの2つの役割

地域子育て支援拠点機能



福祉型児童発達支援センター機能

地域子育て支援拠点
【子ども子育て支援法】



利用者支援事業

親子ひろば

一時預かり

福祉型児童発達支援センター
【児童福祉法】



障害児支援事業・計画相談事業

保育所等訪問支援事業

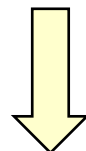
児童発達支援事業

地域生活支援事業

2つのセンターの対象者

子ども発達支援センターの対象の拡大

総合保健センター



すべての子どもの健やかな
育ちを支援する

子ども発達支援センター



すべての子どもの発達を支援する

子育て世代包括支援センター機能の中核

総合保健センター

子ども発達支援
センター

子ども家庭支援
センター

2つの機関の強みと弱み

機能を合わせて

総合保健センター

- すべての子どもと保護者を対象に関われる。
- 課題の早期発見
- **親からの相談の敷居は低い**
- 節目節目で子どもの成長発達を確認できる
- 家庭訪問ができる。**生活にアプローチできる。**

発達支援センター

- **育てにくさを抱えたお子さんと保護者の支援**
- 親からの相談の敷居は高い。
- 就園や就学に向けての支援

気づいたこと

つないだ先を見ていなかった

- つなぐ ≠ 連携
- 子どもたちが専門機関でどんな支援を受けるのか知らなかった
- 親子の将来を見据えて母子保健の分野で何をしたらいいのか考えてこなかった
- サービスの限界

親の気持ち

■ 親の揺れる動く気持ち

「相談する」ハードルの高さ

無心にかわいいと思っていた子どもに対して回避的な気持ち

放任・過保護・拒否・健常に近づけるために専門家にみてもらいたい

みんなと同じ幼稚園にいかせたい！いつまでも成長発達し続ける姿をみたい！

気づいたこと

子どもたちの可能性

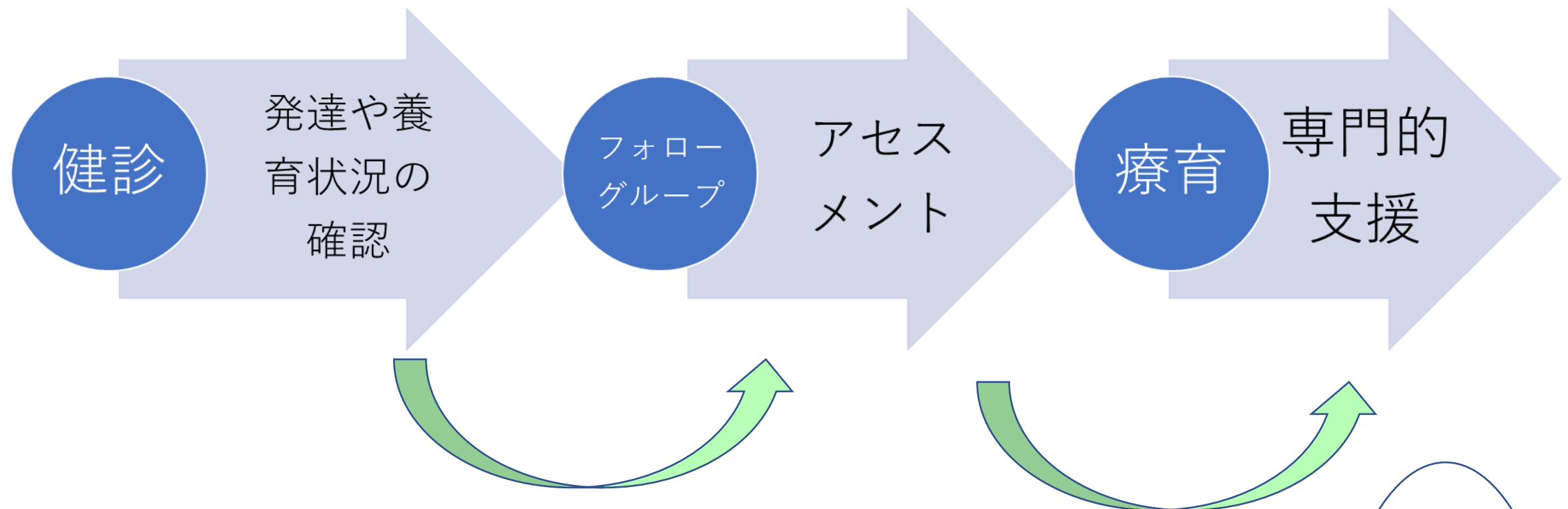
- 通園の子どもたちが生き生き活動する姿からの学び
- 子どもの発達のステップは障害の有無で変わらない
- 親へ支援の大切さ
- 発達に課題があるか否かの境は曖昧

〇〇したつもり・

- 保健師がしてきたつमोरりの支援は、本当に親子のためになってきたのか？
- 井の中の蛙！
- 子どもの「発達の支援」という視点をもってきたか？

- 1 これまでの取組の課題と気づき
- 2 子ども発達支援センターとの共催事業へ**
- 3 子育て支援プログラムについて
- 4 大切にしたい心の育ち
- 5 「子育て世代包括支援センター機能」を発揮して
すべての子どもの健やかな育ちを支える

これまでの流れ 段階 1 (平成26年度まで)



発達の課題に気づかせる

発達健診

個別の心理相談

つなぐ

これまでの流れ 段階2 (平成30年度まで)

1歳6か月健康診査 発達課題の発見

発達の課題のあるお子さんを経過観察グループに保健師が誘う

子どもに発達課題が疑われる家庭を訪問



- ・家庭環境の確認
- ・経過観察グループへ参加を促す
- ・親の不安や困りごとを確認
- ・子どもの状態や課題の確認

経過観察グループ 子ども発達支援センターと共催

発達段階に応じたプログラムの提供

アセスメント

- ①親の関わり方 ②社会性 ③言語理解 ④微細運動 ⑤粗大運動 ⑥認知
点数化して評価 + 子どもの行動の特徴

アセスメントの結果、引き続き発達支援の必要な親子



子ども発達支援センター主催の経過観察グループへ

対象者を絞っていく

現在の流れ（令和元年度から）

1歳6か月健康診査「子育て講座」「子育て支援プログラム」を全員に案内

全員が対象（自ら申し込む）電話や健診の当日受付

子育て講座（はじめの講座）

発達に課題があったり親子関係に問題が有りそうな家庭には、子育て支援プログラム前に家庭訪問



- ・家庭環境の確認：子どもが活動しやすい環境になっているか、家庭での子どもの様子や親子や兄弟関係などを確認
- ・子育て支援プログラムへの期待を持ってもらう
- ・親の不安や困りごとを確認

子どもがわかりやすい家庭環境をつくる
家庭状況を把握し、親への助言

親子が活動を**楽しめるように！**

子育て支援プログラムでフォローしやすいように
（プログラムの中での個々の目標をもつ）
（予測を立てる・スタッフの心構えと準備）

子育て支援プログラム（こいぬ）

発達段階に応じたプログラムの提供

アセスメント

親

①動ける ②助言が必要 ③動けない

子

動けている・・・①理解して動けている ②わかっていない

動けていない・・・①理解していて動けない ②理解していなくて動けない

親が子どもに向かえているかを評価

子育て講座（フォローアップ）「みたか子育てHand Book」を活用

子育て支援プログラム（こねこ）

子育て講座（まとめの講座）

希望者は全員一年間継続可能

- 1 これまでの取組の課題と気づき
- 2 子ども発達支援センターとの共催事業へ
- 3 子育て支援プログラムについて**
- 4 大切にしたい心の育ち
- 5 「子育て世代包括支援センター機能」を発揮して
すべての子どもの健やかな育ちを支える

子育て支援プログラム

子育て支援プログラムの目指すもの

■ 親への働きかけ

- ・ 子育てに向かうことに喜びと自信を持てるように
- ・ 親子一緒の時間を楽しめるように

■ 子どもへの働きかけ

お母さんやお父さんと一緒に心地いい、安心・安定を共感・共有できるように

「遊び」「家庭での丁寧な子育て」をとおして**感受性**
応答性を育てていけるように

親の子育て力向上に向けた取組

子ども発達支援センターと協力して

子育て支援プログラム

1歳6カ月児健康診査

健診の通知と一緒に子育て支援プログラムを全員に案内

子育て講座

保健センター主催

この時期に大切に育てたい心の発達について知り、親が子どもに積極的に向かえるように

「こいぬ」

発達支援センターと共催

1歳6ヶ月児～2歳児対象
子育て講座を受けての実践プログラム

「子育て講座」 フォローアップ講座

発達支援センター主催

講座後の実践を経験し、子どもへのかかわりを深め向かい合えるように

「こねこ」

発達支援センターと共催

2歳～2歳6か月児対象
講座と実践を繰り返し、ステップアップしたプログラム
親が家庭の中で積極的に子どもと関わり、子育てに楽しく向かえるように

「子育て講座」 まとめの講座

発達支援センター主催

集団生活を意識し、子どものかかわりを深め、向かい合えるように

子育て講座



幼児期に育てておきたい
大切な育ちについて



子育ての大切な5つの
要素について

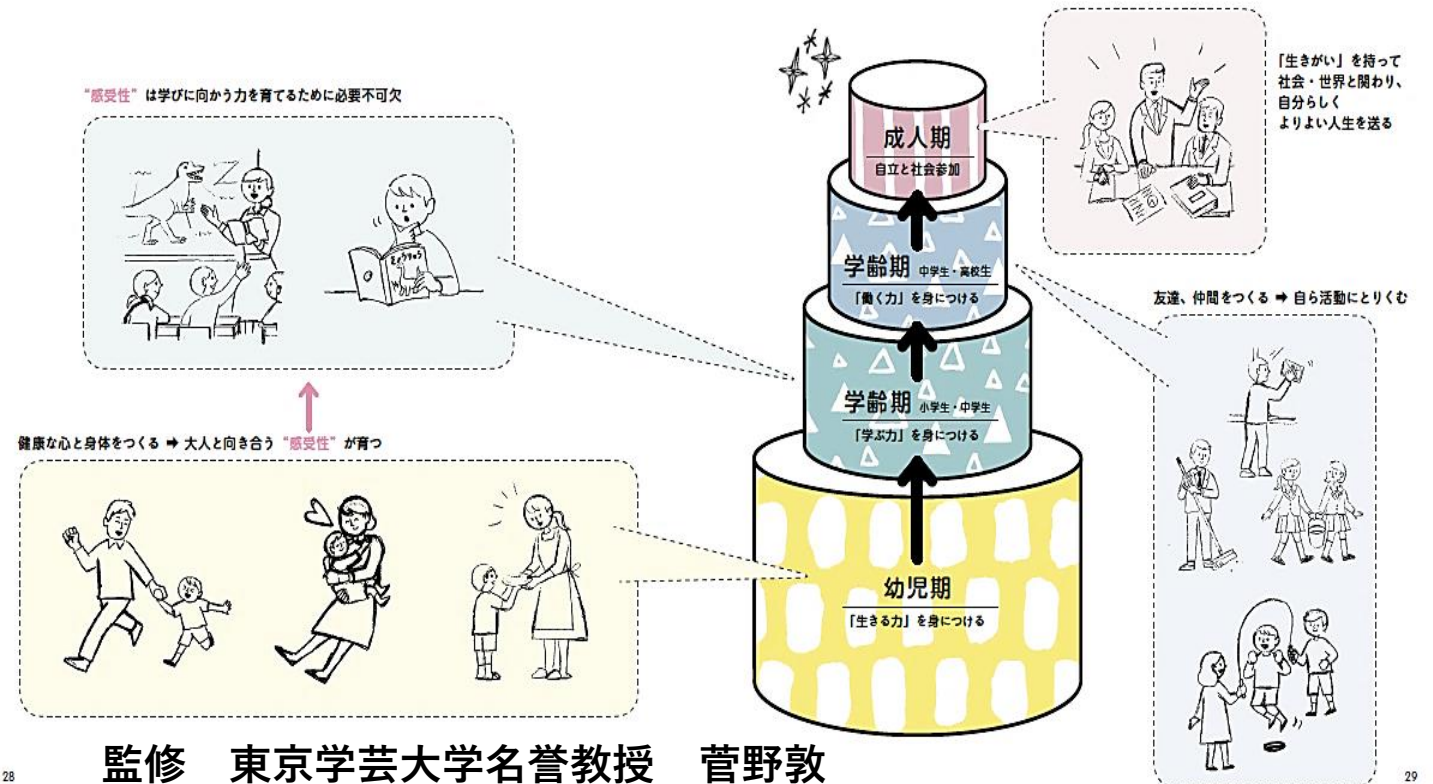
みたか子育てHand Book

親の実践報告会を経て作られた冊子

Let's enjoy raising the children

子育ての大切な 5つの要素

この冊子では、子育ての大切な5つの要素を通して、
楽しいやりとりができる具体的な工夫について、ご紹介していきます。



身近なこと(ADL)を 楽しむ

- 1 楽しいあそびのひとつとして
工夫次第でお着替えだって楽しいよ!
- 2 子どもができるやり方(手順)を決める
やり方がわかると自分からやろうとするよ!
- 3 大人も一緒にとりくむ
自分でできるようにしなくちゃ、と気負わず、
“一緒に”が上達の早道!

子どもと一緒に

Let's
try!



子どもができるための 準備をしよう

例えば、着替えでは…前後がわかるように、シャツの後ろにマークをつけてあげましょう。子どもがわかる工夫をすることで、間違わずに着ることができます。「マークはどこかな?」「あったね!」と、楽しいやりとりの時間にもなりますね。

手順を決めてやりとりをしよう

「着替えをしてね」「かたづけてね」と一言で伝えていませんか? でも、子どもにとっては、何からどのようにやったらいいかわからないことも多いのです。手順を決めると、子どもはひとつずつ「できた!」と達成感を感じ、大人はその都度「やったね」「できたね」とほめることができますね。「手を袖に入れてね」「シャツの首から頭を出してね」「シャツを引っ張ってお腹をかくしてね」と、手順を決めてやってみましょう!



ご飯の配膳や洗濯物たたみも、子どもとのあそびの時間にしよう

大人が忙しく家事に向かっているときほど、子どもはかまってほしいもの。それは、大好きな大人が集中してやっていることに、子どもは強く惹かれるからです。“これはできないからやらせない”ではなく、“一緒にできること・できるやり方”を探してみましょう。スプーンを食卓に運ぶ、洗濯物をたたむ…子どもは大人と一緒にやるのが楽しいのです。「ありがとう」「助かるわ」と声をかけてあげましょう。



子どもと一緒に やってみました!

※実際にご家庭でやってみた実践の紹介です

case.1

向かい合って楽しくお着替え

「ジブンデ!」と言うけど上手くできず、ちょっと手伝ったら怒り出すお着替えも、服をトンネル、足や手を電車に見たてて向かい合って着替えてみると楽しそうにやってくれました。

「シャツ裾の左右やズボンの前に好きなキャラクターのマークを付けたら、正しい服の向きが子どももわかるようになりました。「できたね」と声をかけることが増えて、ママも嬉しいです。



こんなお着替えの
手順を書いてみました

case.2

玄関掃除が定番になりました

ママと一緒に玄関の掃除をやってみたら楽しかったようで、「またやる?」と聞いてきます。水を撒く、ぬらしてちぎった新聞を撒く、ほうきで掃くなど、あそびの延長で楽しんでいます。完璧にきれいにならなくても気にしない、楽しくやってみようという気持ちになってほしいと思いながら続けています。

「きれいになったね!」でハイタッチすれば、子どものモチベーションもアップ。「ありがとう!」とほめられて得意です。



おクツぬいたら、
ならべるんだよ

子育て支援プログラム様子



親子のやりとりを大切に
活動を展開

子どもに関わることが楽しい！
と実感してもらえるように



こいぬプログラムの流れ

保健センターと子ども発達支援センターが協力して進行

監修 東京学芸大学名誉教授 菅野敦

ミーティング

家庭訪問などの情報・親の不安や困りごとの共有
親子への配慮する点を確認

ボールあそび（導入）

おあつまり

歓迎・お名前・今日のポイントの説明・手遊び

新聞あそび

触れる・揺れを感じる・音を感じる・破る・散らす・丸める・怖がる子は親が抱っこで参加

GO & STOP

リズムに合わせて・早く遅く

ふれあいあそび

一本橋こちょこちょ・だるまさん・
・お舟はぎっちらこなど 親子が向き合って・

サーキット

トンネル⇒親は出口で子どもを迎える・怖がる子は親と一緒にくぐる。/はしご/ 一本橋渡りなど

おあつまり

活動のふりかえり・親の感想・手遊びでおしまい

ミーティング

全体の流れの評価・親子の様子を評価、フォローが必要な親子がないか
・次回配慮することの確認

子育て支援プログラム（こいぬ・こねこ）

構成や流れで気を付けていること

5回同じ内容・流れで行なう。（児童発達支援の5領域）

子どもが見通しが持てるように・おうちで予習や復習ができるように

チェックをしない 何かができることを目指さない⇒親子が楽しく向き合えることを大切に

子どもが一生懸命に活動に取り組む姿を親に見せる

場面の切り替えを大切に

間をつくらない・静と動の流れをつくる。活動の終わり方を大切に、次の活動に移れるように

親子が向き合うふれあいを重視

遊具は極力使わない。親のからだを使った運動遊び

親が子どもの頑張りを褒める場面を増やす

子どもの表情を見る・ハイタッチ・ぎゅっと抱きしめる・言葉で褒める・目を合わせてほほ笑む

親や子どもをスタッフが称賛する。 少しの変化を見逃さず励ましたりほめる

必要に応じて訪問や電話フォロー

地域全体の子育て支援を

どの親子にとっても必要な支援として

養育力の
低さ

育てにくさ

発達に
課題

みんな一緒

里親

ひとり親

養育困難

ふたご

兄弟間
で比較

生活に困窮

子育てに熱心

医学的診断
がある

みんなと
一緒に

子育てに関心が
薄い

小さく生まれた

思いがけず
授かった

- 1 これまでの取組の課題と気づき
- 2 子ども発達支援センターとの共催事業へ
- 3 子育て支援プログラムについて
- 4 大切にしたい心の育ち**
- 5 「子育て世代包括支援センター機能」を発揮して
すべての子どもの健やかな育ちを支える

育てにくさを感じるこどもの姿

気になる様子

- 言葉が遅い
- 名前を呼んでも振り向かない
- 視線が合わない
- どこかへ行ってしまう
- 場所や物にこだわる
- 一人遊びが好き
- ぼーっとしている 等々

育てにくさはその後の健康リスクを上げる

二次的な障害をおこさせないために

発達が遅れ 保護者との相性
発達の変り 反応の薄さ 子育てに関心が低い



相互作用の乏しさ 家族の中での排除



二次的な障害

ここからの支援は難しい



子ども本来の能力が最大限に発揮できるための親支援を

発達の課題ばかりに目を向けるリスク

育てにくさ = 発達障害？

育てにくさ 言葉の遅れなど



問題にばかりに目が行きがち

すべてが遅れや偏りに見えてくる

親が子どもに関われない



親が子育てに喜びを持ってない

- ・ 専門家でないと育てられないという思い
- ・ 特別な子育てが必要だという思い

愛着の未形成は社会性の弱さにつながる

乳幼児期に育てなければいけない力

■愛着形成を促す支援をしてきたかな？

親の悩みを「傾聴」しただけでは愛着は育たない



愛着の育っていない子どもを、人に向かわせることは難しい
人に向かえない子どもに何かを教えることは難しい
集団の中でみんなと一緒に活動に向かわせることは難しい



日常生活の中で、沢山のやり取りをとおして



感受性

+

応答性

を育てる！

感受性・応答性はどうやって育てるの？

愛着は子どもにとって安全基地

- 乳幼児が発したサインに適切な応答を返していくことの積み重ねで育っていく
- 乳幼児期に心地よい「やりとり」をとおして育つ
- 一番近い親とのかかわりをとおして、**毎日の生活の中で**育っていく

育てにくさがある子こそ大切に育みたい心の力

子どものサインに気づくには親がしっかり子どもを見てることが大切

家庭訪問

保健師による支援

家庭訪問

生活の場に行ける強み



子ども本来の能力が最大限に発揮できるための親支援を

障害児支援の基本的な考え方

障害児本人の最善
の利益の保障

家庭支援の重視

インクルージョン
の推進

障害のある子ども達の自己肯定感を高め、多様性が尊重される中でその子らしさが発揮できる支援が重要

障害児も同じ「子ども」であり、障害児施策と子育て施策を連続線上のものとして考えていく必要がある

保護者として障害を含めその子のありのままを肯定していくプロセスや成長・発達過程で様々な葛藤に直面する保護者をしっかりサポートする

すべての子どもの子育て支援へ

すべての子どもの子育て支援へ



児童発達支援の
対象者中心の
発見・支援から

子どもの発達支援として何ができるか

まずは支援者の意識を変える・親に働きかける

専門機関につなぐだけの意識を変える

地域で子どもを支える

親としての育ちを支える

子どもの感受性・応答性をしっかり育てる（愛着）

日常生活の過ごし方を具体的にアドバイス

- ・生活リズムを整える
- ・環境を整える
- ・身の回りのことを楽しい遊びとして
- ・運動遊びは、大人が遊具になる等
- ・感覚遊びは嬉しさや楽しさがひろがる遊びとして

今、困っていることに対してアドバイス

幼児期に「人に向かう力」をしっかり育てて、
学校教育にバトンを渡す

家庭での子育てをしっかりと支える

子育て支援プログラムは「にじいろプログラム」に挟まれている

子育て支援プログラムの位置づけ

療育支援（にじいろ）プログラム（外来療育）

あおプログラム（5歳～5歳11か月）

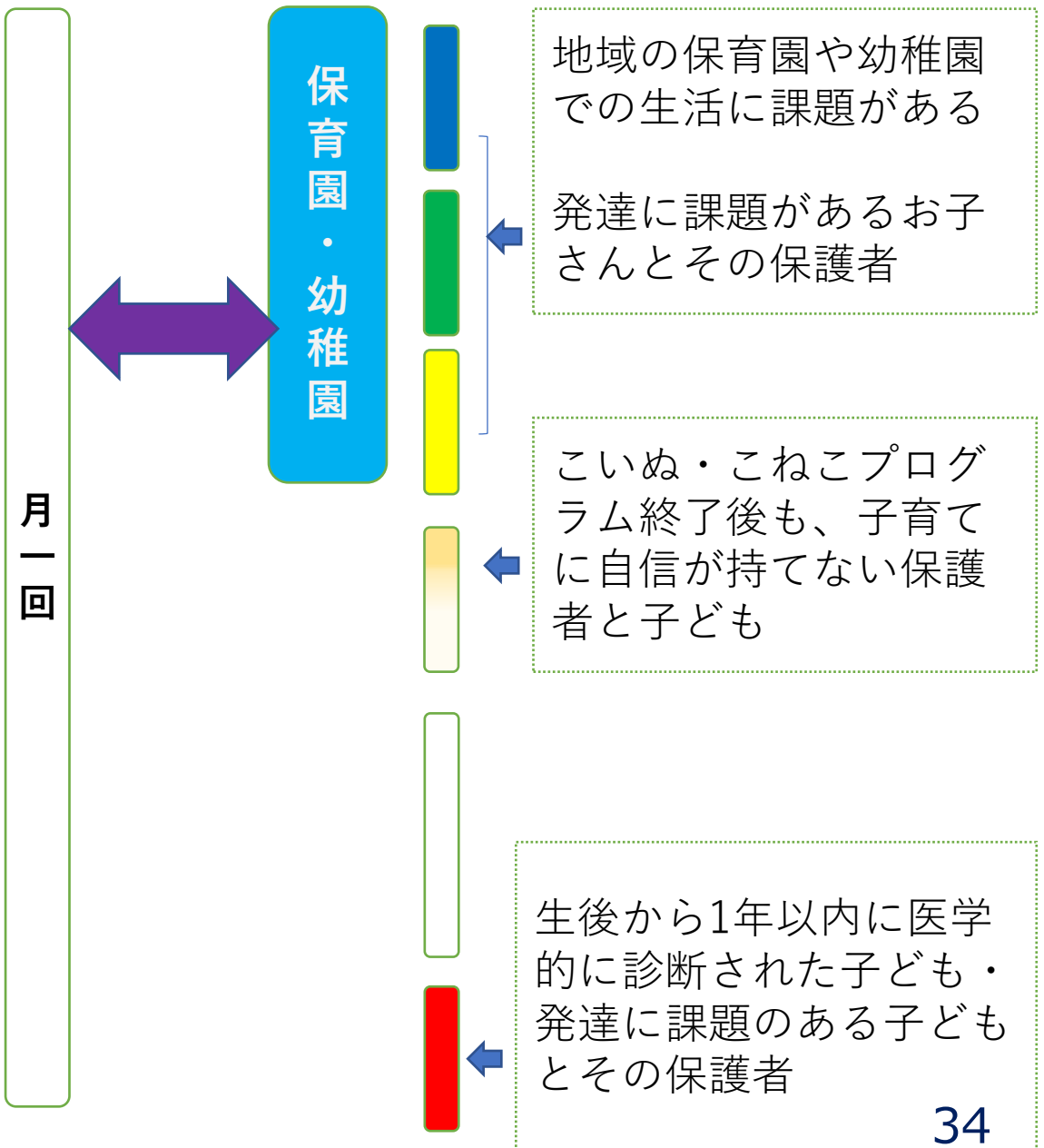
みどりプログラム（4歳～4歳11か月）

きいろプログラム（3歳～3歳11か月）

オレンジプログラム（2歳～2歳11月）

子育て支援プログラム（こいぬ・こねこ）

赤プログラム（～1歳6か月）



児童発達支援の提供すべき支援

保育所保育指針がベース

児童発達支援

5 領域

健康・生活

運動・感覚

認知・行動

言語・コミュニケーション

人間関係・社会性

5 領域

健康

人間関係

環境

言葉

表現

育てにくさのある子もない子も子育ての基本は同じ

普通の子育てを

丁寧に

手順を決める・楽しい遊びとして

道具を使わず大人が遊具になって（ふれあい遊びなど）・大人も一緒に楽しいを共感して

大人も楽しむ感覚遊び（抱っこでゆらゆらなど）

活動場所や物の置き場所を決める・子どもが出し入れできる工夫を・物の数は子どもが扱える数に

気持ちの切り替えは行動で・日課づくりなど

身の回りのこと

運動遊び

感覚遊び

整った部屋
空間的な環境

生活リズム
時間的な環境

子育て支援プログラムを通過した**3歳児**の親子の姿

数値では表せないけれど

先生の指示を期待して待てる子どもの姿

できたことを褒めてもらいたくて、親を振り向く姿

まとまりのある行動がとれる姿

楽しそうに活動する姿

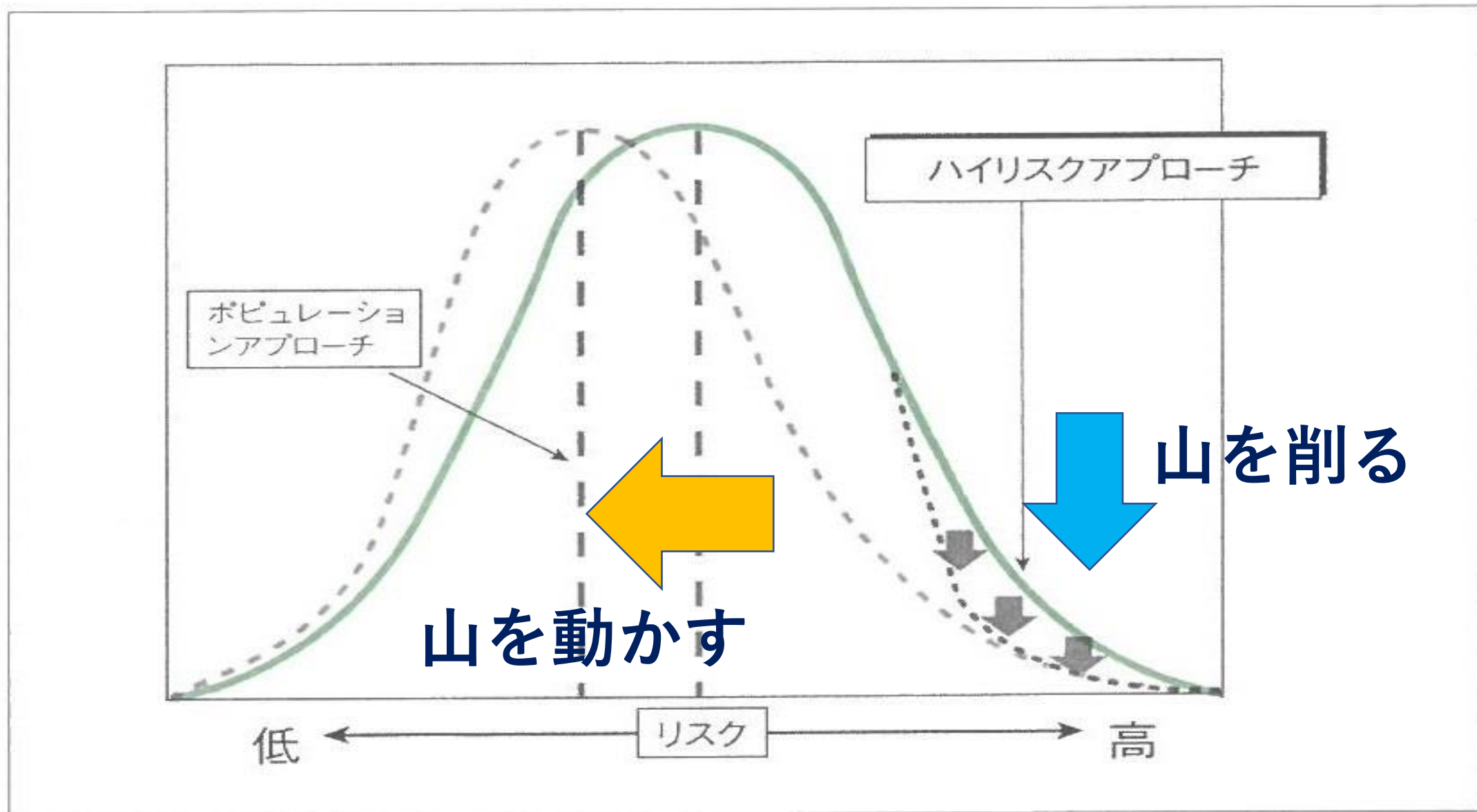
活動に集中する姿

次の活動に切り替えられる姿

親が子どもに主体的にかかわろうとする姿

親も一緒に活動を楽しむ姿など

ポピュレーションアプローチ



保健師のためのポピュレーションアプローチ必携 公益社団法人日本看護協会参考

アプローチの方法を変化させる

ハイリスクアプローチ

課題のある子と保護者
発達課題へのアプローチ
課題への取り組み方法を知る
療育としての子育て
専門機関での子育て
問題の解決具合を評価

課題を発見しても、なかなか支援に繋がらない。
親は不安な気持ちで参加
専門家に教えてもらう姿勢（受け身）

ポピュレーションアプローチ

すべての子どもと保護者の子育て支援
子育てそのものにアプローチ
親子の愛着形成を目指す
保護者が子どもへのかかわりを知る
地域や家庭での子育て
親が子どもと向き合えているかを評価

子育て講座で動機づけ 相談の敷居を下げる
親が主体的に参加する
いろんな親子が参加（発達課題だけでなく、養育困難者・貧困家庭なども自然と含まる）⇨ **みんな一緒**

ポピュレーションアプローチで、ハイリスク群をよりよい方法へ動かしていく

ポピュレーションアプローチとして取り組む意義

社会的規範が 変わる

- ・ 発達に課題のある子どもと同じ「子ども」であり、障害児施策と子育て施策を連続線上のものとして考えていけるように
- ・ 地域で育てる意識・家庭の子育て力を向上させる意識を育む
- ・ 課題のある子どもない子ども、一緒に育つ地域（参加と包容）
- ・ 「つなぐ」から「連携」「協力」へ・・・一緒に支える意識
- ・ 専門機関での療育から家庭や地域での「丁寧な子育て」へ意識変換

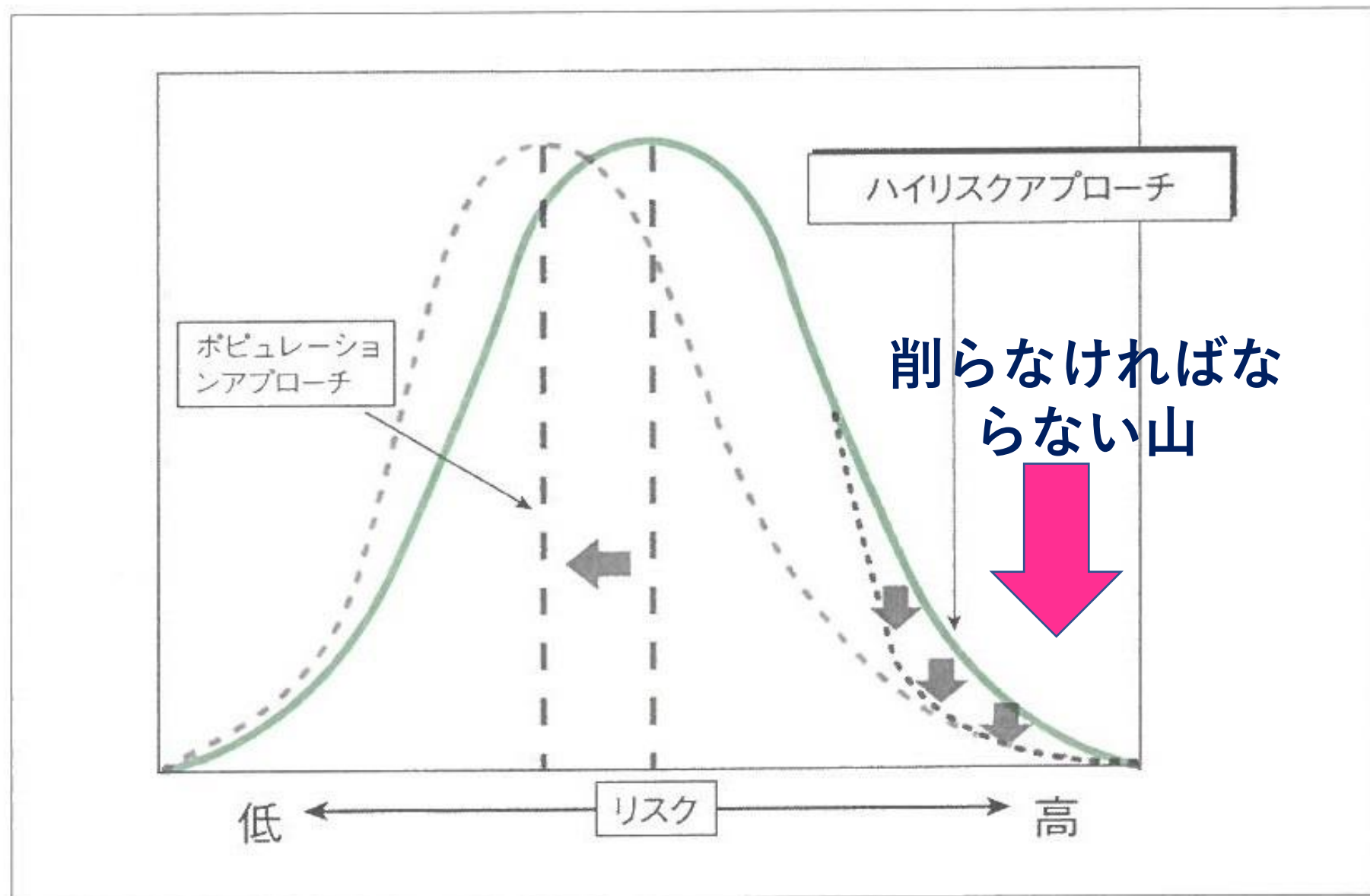
関係機関の関 係性が変わる

- ・ 「子育て支援プログラム」の取組を契機に、子育て支援関係機関がそれぞれの機関の役割や支援方向性を再検討
- ・ 各関係機関が情報交換・相互理解のための会議
- ・ 職員間・職種をこえた意見交換や情報交換・事業見学等が活発に
- ・ お互いを知ろうとする動き
- ・ 支援の検証・利用者目線の再点検の動き

個人が 変わる

- ・ 親が子育てについて、学ぼうとする。子育てが楽しいと思う。
- ・ 親が主体的に子どもに関わるようになる。
- ・ 親が関わると子どもは変わるとわかる。
- ・ 発達の課題があっても、我が子に向かう喜びをもてる。
- ・ 仲間と共に考えながら子育てに向かおうとする。

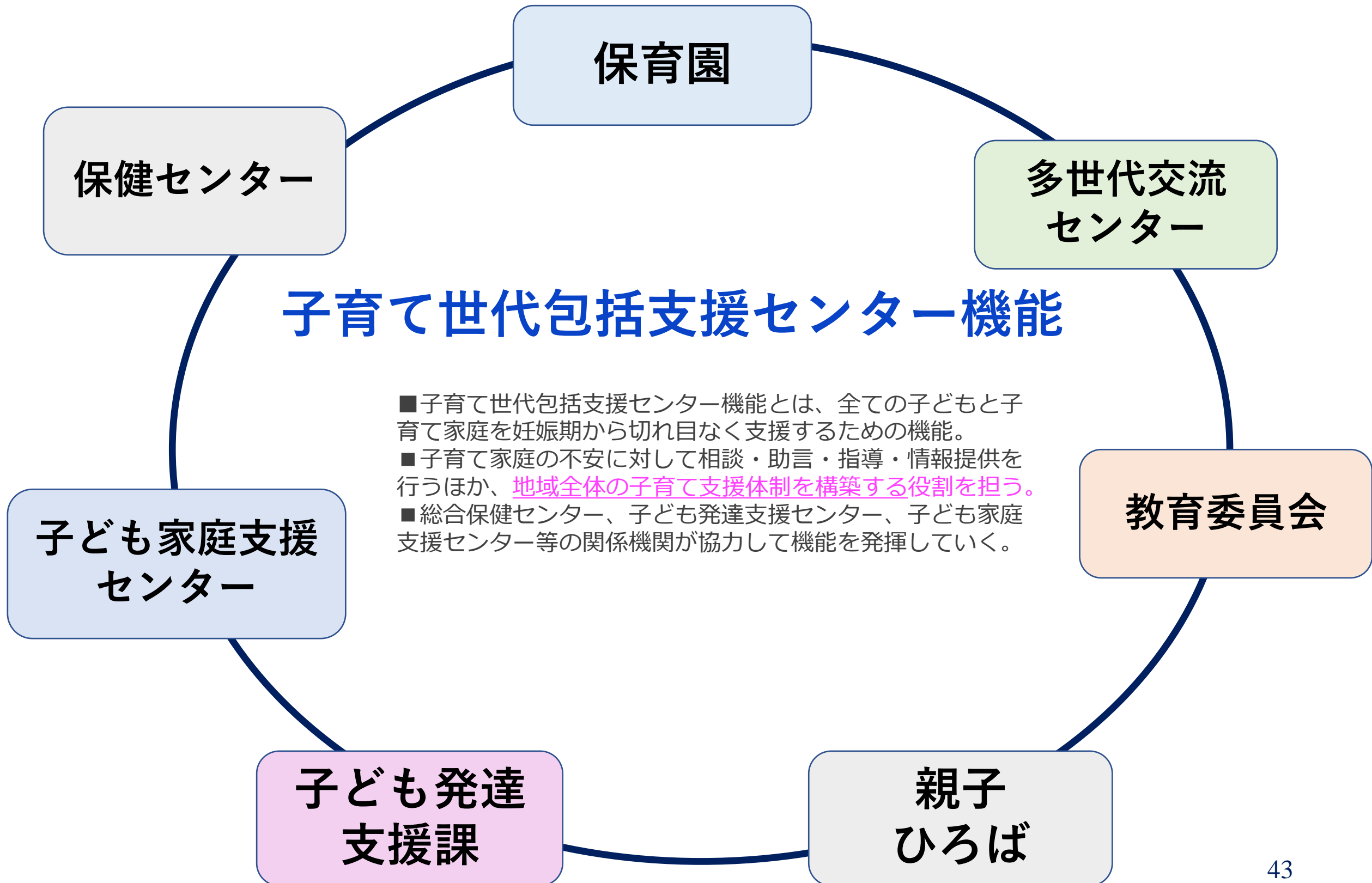
ポピュレーションアプローチ



山を削るために、子育てを支援する我々の意識を変える

- 1 これまでの取組の課題と気づき
- 2 子ども発達支援センターとの共催事業へ
- 3 子育て支援プログラムについて
- 4 大切にしたい心の育ち
- 5 「子育て世代包括支援センター機能」を発揮して
すべての子どもの健やかな育ちを支える

子育て世代包括支援センター機能



6つの基本方針

- I 多様な主体の参画と協働による地域子育て環境の整備
子育てしやすいまちの環境整備、多様な担い手による子ども・子育て支援の充実
- II 健やかに育つための子ども・家庭支援
家庭の子育て力向上、子育て世帯に寄り添った切れ目ない子育て支援、
子育て世帯を取り巻く生活環境の整備、社会的養護体制の強化
- III 子どもの育つ力を引き出す保育環境の充実
保育施設等の充実、保育サービスの充実と質の向上、幼・保・小の連携
- IV 子どもの生きる力を育む教育環境の整備
豊かな心と健やかな体の育成、学校教育の充実、個に応じた指導・支援の保障、学校環境の整備
- V 子どもの総合的な育成環境の整備
学童保育所の充実、総合的な子どもの居場所づくり、子ども・若者支援の充実
- VI 子育て支援施策の質の向上をめざした検証・研究
子ども・子育て支援施策の評価・検証、三鷹らしい教育・子育て支援の研究

基本方針Ⅰ

多様な主体の参画と協働による地域子育て環境の整備

1 地域ぐるみの子ども・子育て支援の推進

①子ども憲章の周知、②子どもの権利条約の啓発、③子どもの貧困対策の推進

⇒ 子どもを大切に思う、地域ぐるみで「子ども・子育て支援」という意識を育む

2 幅広い行政分野における子育て環境の整備

①子育てしやすい就労環境、②子育てしやすい住環境、③安全・安心につながる
取り組み

⇒ 子育て家庭が暮らしやすい周辺環境を整備する

3 地域における新たな子育て人財の育成

①子育て人財の育成、②ファミサポ事業の充実、③地域の活動、地域の団体との連携

⇒ 子どもの育ち、子育て支援に関わる人を増やす

基本方針Ⅱ

健やかに育つための子ども・家庭支援



1 家庭の子育て力向上に向けた支援の充実

①親の育ちを支援、②子育て家庭と地域をつなぐ

⇒ 親としての成長を促す、子育て家庭を孤立させない

2 切れ目ない子育て支援の充実

①子育て世代包括支援センター機能を発揮、②母子保健の充実、

③子どもの健康づくり、④子育て支援事業の充実、⑤障がい児支援

⇒ 子育て家庭の不安に寄り添う

3 子育て世帯をとりまく生活環境の整備

①経済的な支援、②子どもの医療体制の確保、③ひとり親家庭への支援

⇒ 子育て家庭の負担を軽減する

4 地域における社会的養護体制の強化

①児童虐待への的確な対応、②養育家庭（里親）の普及・啓発

⇒ 子どもの人権を保障し、育つ環境を整える

基本方針Ⅲ

子どもの育つ力を引き出す保育環境の充実

子ども・子育て
支援ビジョン

1 保育施設等の充実

①保育施設の整備、②公立保育園の効率的な運営の検討

⇒ 保育を必要としている子育て家庭に、保育を確実に提供する

2 保育の質の向上に向けた取り組み

①幼児教育の充実、②保育の質の確保、③病児保育の充実、④障がい児・医療的ケア児の保育環境を整備

⇒ 多様なニーズに応えつつ、子どもの育つ力を引き出す保育を専門性をもって実践する

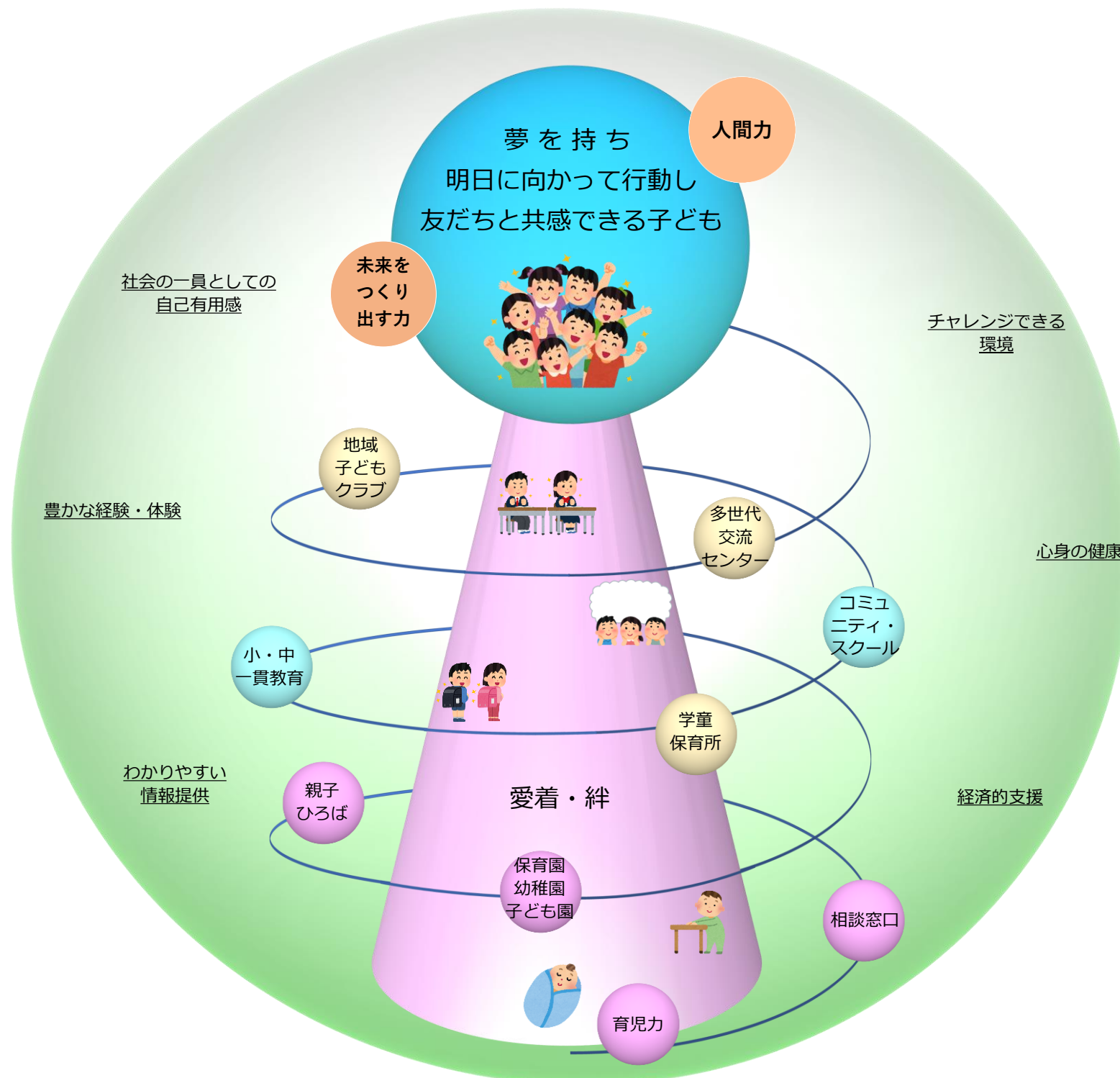
3 幼・保・小連携の取り組みの推進

①幼稚園・保育園と小学校との連携教育

⇒ 子どもの育ちをスムーズに学校教育につなぐ



三鷹の子ども・子育て支援の全体イメージ



- ・最終目標は、人間力と社会力をもった子どもが育つこと
- ・子どもの育ちには、子どもが育つ環境が重要
- ・親（家庭）が安心して愛情をもって、安定して子育てを行うことで、子どもは安心して健やか育つ
- ・地域全体が子どもに愛情をもって、それぞれの役割を果たしながら子どもと関わることで、子どもはより豊かに育つ

だから、私たちは

- ・子どもに大きな影響を与える子育て中の親（家庭）を、妊娠期からライフステージに応じて切れ目なく支援する
- ・子ども自身の育つ力を最大限引き出すように専門性をもって支援する

【人間力】

基礎的な素養を身に付け、自分で考え判断し、豊かに力強く生きていくための総合的な力

【社会力】

社会とかかわり、社会の一員として役割を果たしながら、適切な人間関係を結び、共に生きていく力

これまでの親子への支援

親としての育ちを支える

子どもの発育
発達への支援

親の子育て力
向上

子育て支援施策

傾聴

休息

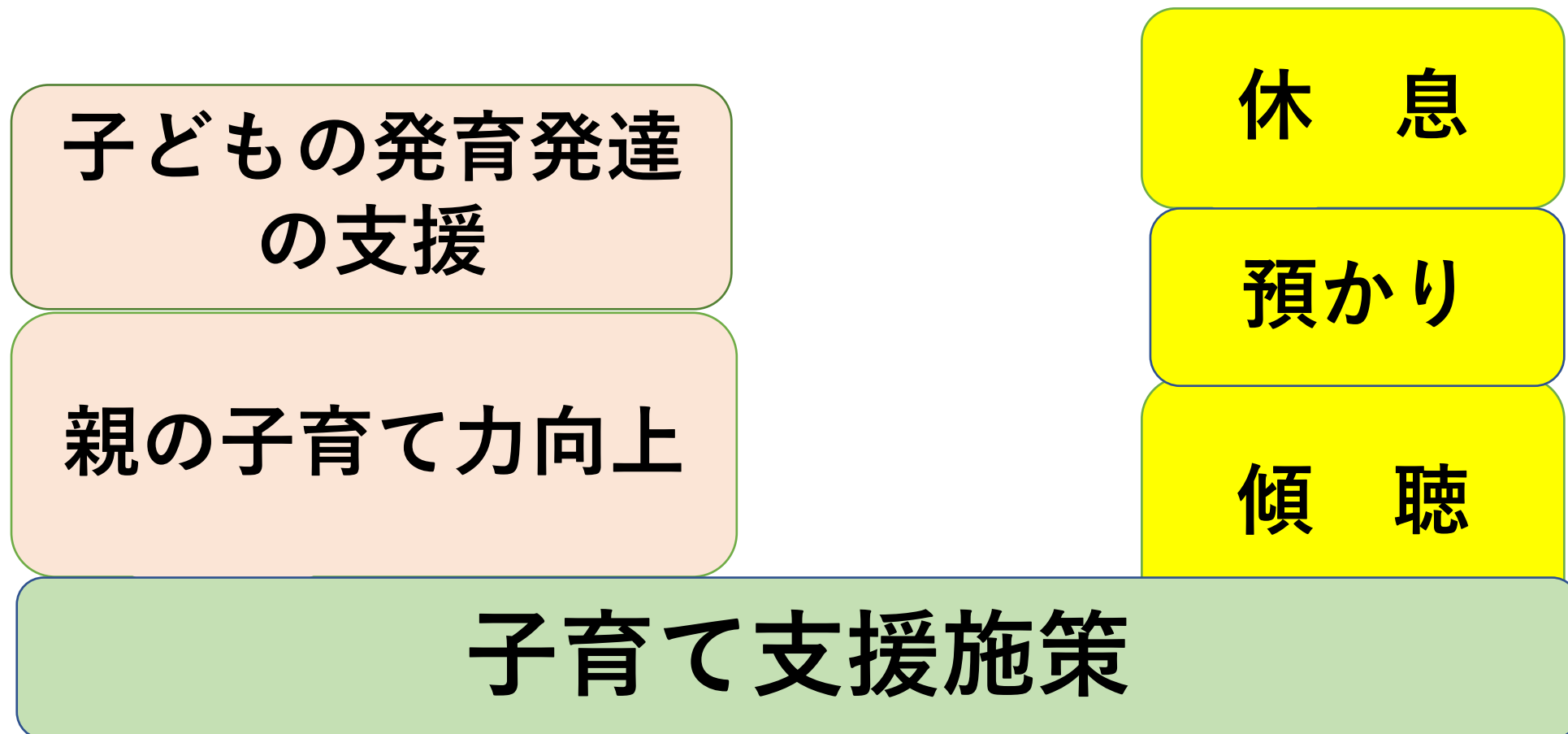
預かり

親の負担の軽減

これからの親子支援

地域全体で！一貫性を持って！包括的に！支援する
子どもが育つ仕組み（地域）をつくろう！

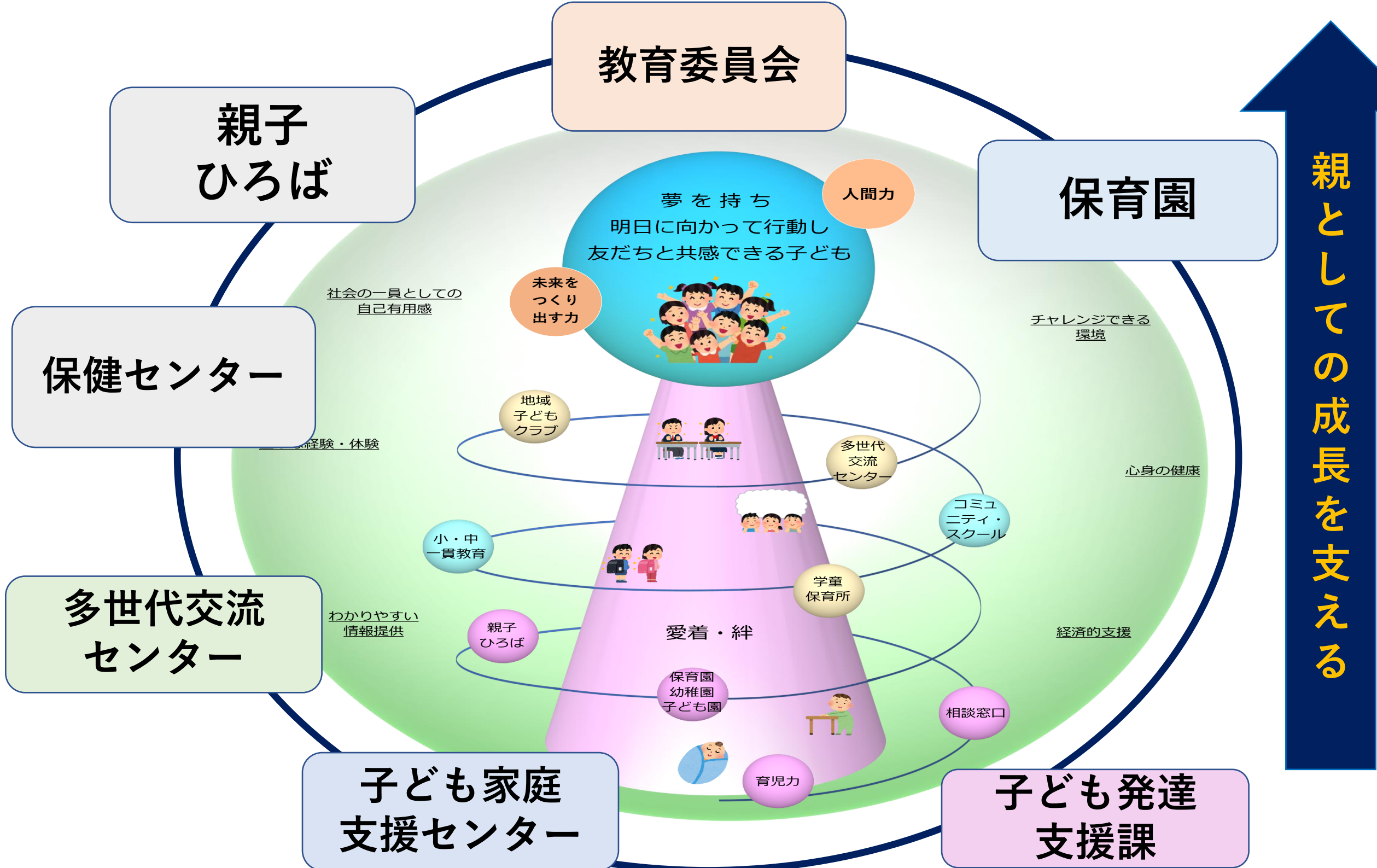
親としての育ちを支える



親の負担の軽減

バランスよく！

地域で三鷹市の子育て支援の方向性を合わせて



子育て世代包括支援センター機能を発揮して何をを目指すのか

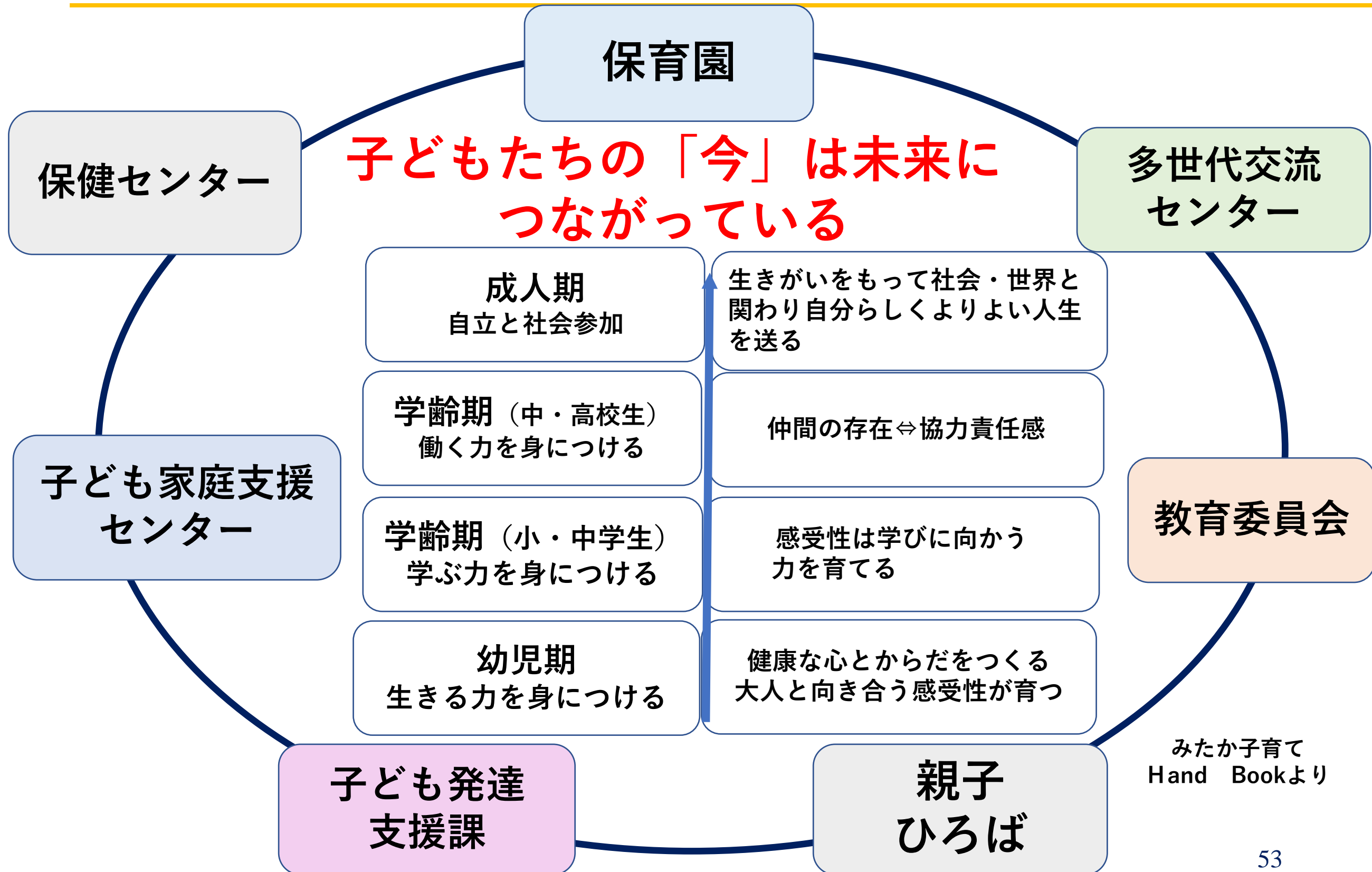
健全な親子関係・家庭を築ける地域をつくる！

妊娠・出産子育ての両面からすべての妊産婦、乳幼児を対象とするポピュレーションアプローチを基本とする

支援者側が一貫性をもって、それぞれの段階に応じた助言や情報提供が利用者目線で提供されるようにする

日々の子育てが親自身も成長する喜びの体験として濃縮された貴重な時間となるように、支援の質的、量的な向上を図っていく

子育て世代包括支援センター機能を発揮して



みたか子育て
Hand Bookより